

令和5年度 第2回鶴岡市スポーツ推進審議会 会議録

- 日 時 令和5年10月31日(水)午後1時30分から3時00分まで
- 会 場 小真木原総合体育館 2階大会議室
- 審議事項 第2期鶴岡市スポーツ推進計画(案)について
- 出席委員 村田久忠会長、山本益生副会長、齋藤隆委員、佐藤祐司委員、里見研委員、難波理委員、丸山春男委員、佐藤利浩委員、佐藤真紀委員、佐藤しおり委員
- 欠席委員 高橋健彦委員、和田恭司委員、鎌田博子委員、川野二三男委員、佐藤満子委員
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴人の人数 0人
- 協議題等 以下のとおり(1)第2期鶴岡市スポーツ推進計画(素案)について

(1)第2期スポーツ推進計画(素案)について

委員・文章が全体的に硬い感じがしますので、ですます調にしてはどうかと前回の後期改定計画の時も意見を述べたと思います。何々であるとか、文章を切らないで、例えば「検討が必要です」、または「課題です」、「必要があります」という形にすると多くの市民が見たときも、やわらかく感じると思います。行政はかたいイメージがありますので、課題の中の文言を考えてみたらいかがでしょうか。

・7ページの(3)の課題に「障害者スポーツを講習できる人材の確保」とありますが、この障害者スポーツ講習の人材の確保については、(2)の「障害者スポーツ実施に関する対する環境づくり」に含まれるのではないかと思います。(3)の中なのかどうなのか、(2)の環境づくりの中にも含めることができないうかと思いました。

・8ページの休日の中学校の部活動のことについて、基本方針2の競技力に入れていますが、中学校の部活動を移行するということが、競技力を高めることと捉えられるのではないかと思います。競技団体としては強くなって欲しいのですが、一般市民から見るときに、競技力推進を高めるためには、地域に戻すことが一番なのだと捉えられないだろうかと思いました。市の総合計画の中では中学校、高校の部活動と競技団体と連携しながら、競技力を高めていくと書いてあります。これにならうとすると、中学校の部活動については、競技力を高める部分と、それから、基本方針4の地域に関わるスポーツ環境の充実にも「中学校部活動地域移行」があってもいいと思いました。休日における中学校部活動地域移行は余りにも大きい話ですのでそう思いました。競技力を高めるためには、休日の中学校部活動を地域に移行することだと言っているように見えるのはどうなのかと思ったところです。ただ、競技力を高める上で連携は非常に大切だと思いますので、いい形で入れていただければと思います。中学校部活動地域移行のところが一番気になりました。競技力を高めて欲しいという競技団体の思いはあります。

委員・先ほどの教育長のお話の中にもコミュニティーとか、まちづくり、そういうことでもスポーツとつながりがあるのだというお話がありまして、鶴岡市自体は今、SDGsの未来都市宣言もされていますので、この健康もSDGsに繋がるところですので、基本方針の考えに入れた方が、もしかしたらいいのではないかと思います。具体的には基本方針1に市民の健康とありますので、SDGs未

来都市鶴岡が市民の健康に繋がるとか、そういう形で少しSDGsを意識するのはどうでしょう。17項目ありますので、スポーツのこと、設備についてもそうですが、いろんな分野でSDGsに関わってくるが多々あろうかと思しますので、取り組まれてはどうかと思いました。

委員・生涯スポーツから競技スポーツまで様々ありバランスの取れたたくさんの提案があると思いました。7ページの(3)に鶴ウォーカーポイントとかスマホアプリを活用という、斬新な取り組みが提案されており、若い方々からいろいろチャレンジしてもらえないかと思いました。

・8ページ(1)の熱中症対策についてあります。今年は酷暑となり非常に暑い夏で、学校では毎日のように今日は外では遊ばせん、体育の授業はできませんというようなことの連続でした。鶴岡市学童陸上大会も、練習ができないということで中止せざるを得ませんでした。ぜひこの熱中症対策について具体的にどういう方策がいいのかということについては研究の余地もあるのかもしれませんが、冷房の設備であるとか、水がミスト状に出てくるような機器など、様々あると思いますが、熱中症対策について、充実をお願いしたいと思いました。

・8ページ(2)には指導者の資質向上がありますが、これは競技スポーツだけでなく生涯スポーツの面でもそうだと思いますが、やはり今のスポーツ活動については、参加者だけでやることはありえません。指導者の方々或いは保護者の方がついてその元でやるということで、いろんな事故等があった場合には責任問題ということにもなり、裁判などもありますし、厳しいところだと思いますので指導者が、資格を取り、講習や研修を受けることが必要になってきます。資格を取るためには一定の期間が掛かり、金額的にもかなり負担があります。定期的に更新、登録をしないといけないなど、指導する側にとっては金銭的な負担もかなり大きいと思いますので、何らかの形で補助ができたらいいのではないかと、常々考えているところです。

・10ページの施設の安全というところで老朽化或いは故障している部分についての改修改善をぜひ進めていただきたいです。やはり施設設備はスポーツをすること自体の動機づけにもなると思いますので、この綺麗なクラウドでスポーツしてみたい、立派な体育館で何々してみたいというような施設そのものが動機づけにもなると思います。安全管理という点ではもちろんですが、改善改修もぜひ進めていただければと思います。

委員・全体的には本当に様々な取り組みをしながら、スポーツ活動の推進、また特にスポーツに参加する市民を増やそうということが感じられます。先日ある中学校の話を聞きました。全校生徒で80人、10年前には、200人ほどいた過疎の学校です。子どもの数が減ってくるとスポーツ活動自体ができないことになります。例えば競技人数が多いサッカーは11名いないとできない、野球も9人いないとできない。小さな学校に行くとそういう経験すらできない子たちがいるのです。子たちにそういう経験をさせてあげることで、またやってみたいなというふうに思うのかもしれない。そういうスポーツの機会を本当にできるような状態が望ましいと考えてるところです。また、鶴岡市のホームページのオープンデータに、人口の推移が掲載されておりました。2021年3月31日調査の結果なんですけれど、その時点で、例えば0歳から4歳は、鶴岡市全体で、3,701人と記載がありました。5歳から9歳は4,576人。約800人少なくなっています。また10歳から14歳では、5,145人ぐらいから9歳を加えると、約500人弱に、これだけ少なくなっています。10年スパンで考えると、大体1,000人を超える子どもたちが減ってきています。こういった中で、スポーツを通していろんな体験をさせてあげることも一つの使命なのかなと思いました。各地区に総合型スポーツ

クラブを作るのは当然ありがたいことですが、そのクラブがその地域だけのクラブ活動の中だけでは、できないスポーツも出てくるのかもしれませんが。そうしたときに横の繋がりもやはり大切になってくると感じています。ある程度人口が増えている60代は人数的には大きく変わりませんので、そうした人達に対しては本当に、健康増進のためにスポーツに取り組みましょうと声掛けが必要です。しかし、イベントがあるからといって、そこに個人で参加するとなるとなかなかハードルが高いですが、誰かから誘われて一緒に行ってみようと、人との繋がりができたらまた行こうとなったりもします。そう考えたときには、先ほどから出ている地域のコミュニティーもすごく大切なだろうと読ませていただきました。大きな面積がある鶴岡市ではありますが、それぞれの地区を見たときには様々な問題抱えているという気がしますので、そういうところに様々な支援をしていただけると本当にありがたいと思いました。

委員・7ページの(3)の課題に、ウォーキングイベントのリピーターというような項目があります。鶴岡市ではウォーキング事業を本当に一生懸命に実施しているわけですが、それでも参加人数が落ちてると思います。これは単にコロナ禍の影響だけではないと思います。その中で、10月25日(水)ウォーキング初心者を対象に、正しい歩き方教室を開催し、12名が参加してくれましたが、初めて参加した方ばかりでした。指導者が、なぜこの教室に参加したのかを質問したところ、市の広報で見て、初めて参加した方がほとんどでした。鶴ウォーカーポイントなどを準備して広報しているところですが、それでも参加人数が減っていることから、更に広報する方法を具体化して検討していかなければますます減っていく心配があるということでお話をさせていただきました。それから関連ですが、前回5年前にとったアンケートでは、1年間に行ったスポーツの種目でウォーキングが一番多く、50%の方がウォーキングに取り組んでいる結果でした。令和5年度調査では、60%まで上がってる状況でした。やはりウォーキングがトップで、鶴岡市で力を入れてきた結果でもありますし、今後も何とか伸ばしていきたいという気持ちがいっぱいあります。

・9ページのオリパラレガシーについて、ボッチャ競技との絡みがあって本当に気にしていました。課題についてはモルドバ共和国のことを示してるんだらうと予測していますが、ウクライナの隣国ですので、交流が進まないのらうと。ドイツのボッチャ種目のホストタウンとして事前合宿を受入れ、今ものすごい普及しています。子どもから身障者から高齢者まで一緒に遊べるゲームということで、本当にいうなればレガシーとなっています。鶴岡で受け入れていただけてよかったと思っています。

委員・9ページ目(4)のところで、女子バレーボールチーム「アランマーレ」と「公益社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会」とあります。バレーボールとサッカーということだったら、どちらも競技団体名を、使って「モンテディオ山形」と表記してもいいのではないかと気になりました。

・10ページの目標設定の中に、「施設のトイレ洋式化を推進します。」とありますが、「整備します。」だと思います。施設の整備をするわけですから、修正した方がいいと思いました。

委員・充実したスポーツ施設の管理運営の中で、具体的に人工芝グラウンド、トイレ洋式化がありますが、この5年間でやれることは限られてくるかと思しますので、その他いろいろな施設整備を要望されているものもあるかと思しますので、例えば、今だとクライミングですとかスケボーなどを、自由にできる場所の整備ですとか、そういったものもあるのかなと思っていますが、5年間の中での整備とすればこの辺が妥当なのかなと思います。

・13ページ(3)地域に関わるスポーツ環境の充実の中で、「する・みる・ささえる」スポーツの情報発信の充実が重要なことだと思います。「する」側の視点からだけでなく、「みる」、それから事業運営する側の「ささえる」という部分についても、今後の情報発信をしながら、関われる人材の育成が必要なのではないかと思えます。

委員・計画については誰にでもわかりやすい文言を使って整備をしていくのがいいと思います。

・8ページの基本方針2の地域の活力となる競技スポーツの振興についてですが、休日の中学校部活動地域移行ということで課題が多くあります。今後、人口減少により子どもたちの数が減少してくると、先ほど委員からもお話がありました。地域移行の受け皿とされてる総合型地域スポーツクラブも、なかなか前に進もうとしても進めない場面もあります。子どもたちを受け入れる団体を、総合型地域スポーツクラブ以外にも広げられないかと思っていますし、今後も教育委員会との連携は、とても大切だと思っています。

委員・13ページ(3)の「する・みる・ささえる」スポーツの情報発信の充実ということですが、情報が本当に必要な人に、必要な形で届いているかというところは、疑問というか心配なところがあります。市広報に載せたら終わりになっているところがある。行事、イベントなどは広報誌などに載るのですが、日常的に活動している運動などの情報が届きにくいと思います。例えば公民館ではどんな活動をしているか、にこふるなどで施設を借りて活動してる方もいますので、誰でも参加できるような形で情報発信できるとあそこでやってるから行ってみようと、スポーツの機会が広がることになると思いました。

・つるおかスポーツチャレンジの参加者の中で働き世代が少ないということでしたが、忙しいので仕方がないという面もありますが、小学校の PTA 活動や学校保健委員の活動で生活調査をしていますので、親子で一緒にスポーツに取り組むスポーツチャレンジを提案してみてもどうでしょうか。スポーツの後に一緒に温泉に行くという楽しみを作るのも一ついいのかなと思いました。

・鶴ウォーカーポイントですが、以前、何かで説明を見た記憶はあるのですが、この言葉をホームページで検索した時に出てきませんでした。新しい取り組みをすべてホームページから検索できるようにするのは、難しいかもしれませんが、ウォーキングのイベントの中に、この言葉も入れて、理解してもらえようように取り組んでほしいと思いました。

会長・計画については、読みやすい書き方をすべきだと、私も同感です。わかりにくい用語については、注釈をつけてわかりやすくした方がいいと思います。

・9ページ(4)合宿誘致とありますが、現在合宿をしているところがあれば教えてください。合宿誘致は、見るスポーツとして楽しんでいる人もいるので、競技力向上の面ではいいと思います。

事務局・表現の仕方について提案がありました。第1期スポーツ推進計画を作る際にも委員から同様の指摘をいただき、その後の後期改定計画でも、「です・ます調」に統一しています。この度の資料は素案として作成していますので、実際の計画については統一させていただきます。わかりにくい用語についても用語集でまとめる予定です。

事務局・中学校の部活動地域移行の関係について、基本方針2よりも基本方針4の方が該当するのではないかとありましたが、地域移行をしたことで、競技力向上という部分もあれば、地域のスポーツの環境の整備ということもありますので、基本方針4にも部活動地域移行について入れるように修正を視野に入れながら検討します。

- ・SDGs 未来都市の文言の追加については事務局で内容を検討させていただきます。
- ・トイレ洋式化について推進か整備かの表現について、高い目標を掲げるという意味では、確かに整備というような方法も重要ですので、事務局で検討します。
- ・5年間の中で取り組むべき施設整備ということで、例えばクライミングやスケボーなど若者向けの施設整備については、11ページ(3)の市民ニーズに沿った施設整備の取り組みの中で考えていきたいと思います。
- ・合宿誘致の関係で、ドリームスタジアムができた当時は、2000年のシドニーオリンピックの日本代表の合宿、今度読売ジャイアンツの監督となる阿部慎之助さんもメンバーとして参加していました。その後は、2004年アテネオリンピックのメンバーということで、その際は長嶋茂雄さんがドリームスタジアムに来たということで野球については盛り上りました。その後、東京大学の野球部も10数年も野球の合宿ということで使っていましたが、関東近辺に新たなグラウンドができたということで、それ以来鶴岡には来ていない状況です。近年の野球場の問い合わせでは、びわこ成蹊大学というところから、毎年のように合宿の依頼が来ていますが、こちらの大会等の日程の調整が合わないことで、実現してない状況にあります。また野球以外では陸上競技場に、円盤投げの斎藤真希さん(現在東海大学職員)が、東京女子体育大学在学当時は、投てき種目のチームが8月に合宿に訪れていましたが、所属が変わってからは来ていません。現在大学として合宿に来ているところはありません。今後も、計画として掲げる以上は、何かしらのアクションを起こしながら、合宿の誘致に努めていく必要があると考えているところです。

委員・課題について見ていますが、9ページ(4)の課題の「社会情勢が極めて不透明であり～」とありますが、これは本当に課題なのかと思いました。世界情勢社会情勢っていうのは鶴岡で解決できる問題でないのではないかと思います。また、課題の中に現状みたいなものがあります。例えば7ページ(1)の課題に20～30代のスポーツ未実施者が多い(働き世代の参加者が少ない)は現状です。現状からどうしていくのかが、一歩進んだ課題になります。9ページ(3)の「～事業所や仕事が少ない状況にある。」からどうしていくのかが課題なのではないか。現状を踏まえてどうするのを考えていくといいと思います。12ページ(1)の課題「指導者やスポーツ推進委員のなり手不足。」は現状です。現状からどうするのかが課題だと思います。現状も課題ではありますが、整理をしてはどうかと思いました。

- ・具体的な項目や取り組みについては今後の会議で出されていくと思いますが、現状での課題や問題点について鶴岡市として困っているところを、これから先どうしたらいいのか発想していくことだと思います。また、新しい施設ができることはいいのですが、お金がかかることです。計画は、5年ですが、方向的にどういう方向にいくかというのはやっぱり大切だと思います。

委員・先にご意見ありました中学校の部活地域移行について、私も競技スポーツのところに入れるのではなく、子供たちの居場所づくりということの方が先だと思います。クラブチームもできているという現状までは書かれていません。ここには受皿としてスポーツ少年団しか出てきていませんが、クラブチームが出てくることは確かだと思いますが、部活動と同じようにできるかというところはいかないと思います。指導者の問題もいろいろあります。指導者は、競技技術の指導者と中学校の部活の事を考えてマネジメントしてくれる人材がいないと組織が成り立たないだろうと思います。そういう面での人材の発掘や研修も必要だと思っています。

委員・中学生の部活動の地域移行については、鶴岡市だけでなく全国的にも、今話題になっています。この5年間でどうしていくのかを課題としてあげてもいいと思います。反対の見方になるのかもしれませんが、例えば令和8年度の3年後には、休日の部活動は学校ではやりませんとはっきりと謳った方が、実行できるのではないのでしょうか。やれるところからできるところからやっていきましようというスタンスで。地域の事情があって、総合型地域スポーツクラブや保護者会クラブなどがありますが、やれるところがやっけていきましようというスタンスが全国的に見えます。「鶴岡市の部活動は平日のみです。」となるように課題の中に取り入れることができればと思います。将来的には中学校、そして高校も含めて、地域に返したいというスポーツ庁の思いはあるようですので、なんとか地域移行が進められればと思います。

委員・中学校の部活動関連について私も本当に同感です。鶴岡市は県内のどの地域より地域移行が進んでいるようです。マスコミなどでもPRされ一般の人にも気になっているようで我々も質問されることがありますので最近の鶴岡市の情報を教えてください。

・総合型地域スポーツクラブの件です。地域の関連ですと6ヶ所も文言が出てきます。支援もしくは自立支援という形で書いてあります。総合型地域スポーツクラブは資金が十分でないため事務局の人を雇うのが大変な現状があります。今後補助金の資金支援なのか何の支援なのかを明確にしてもらわないと、総合型地域スポーツクラブは、尻切れトンボになりいずれ消滅していく危機にあると思います。実感としてそう思っています。そうならないようにしたいという気持ちがいっぱいあります。

事務局・休日の部活動地域移行の目的について質問がありましたので現状について説明します。令和3年度の休日における部活動検討委員会の委員のご意見を踏まえ、令和4年度に市内各学校に説明を行い、令和5年度から土日などの休日は学校の部活動は行わず、地域活動ということで行っています。県内でも先駆、トップランナーとして動いている状況です。現在令和8年度に向けて、大会も含めてどのようにしていくか検討していますので、そちらも機会を見てお話ししたいと思います。

・現在の状況について、今年度11校の中学校の保護者、生徒、指導者、教職員に対してアンケートを実施し、取りまとめているところです。結果については、次回、もしくは3月の審議会等で報告できればと思っていますので、もうしばらくお時間をください。

・地域移行の受皿となる団体への支援については、今年度より、補助要綱を策定して、団体に対する支援ということで、総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団、文化団体に対して、支援を実施しています。その活用について、現在各団体に説明しながら進めていますが、さらに使いやすい補助支援となるように、今後も検討していきながら、団体及び、指導者等への育成も含めた支援となるように考えていきます。

・補助事業については、鶴岡市のホームページの方にも載せています。部活動の地域移行のための運営団体への支援ということで、令和5年度に策定して、4月1日よりスタートしています。総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、地域の文化芸術団体、合唱と水泳など全部の部活に対して、イメージしております。受け入れ人数に応じた額ということで、支援を実施しています。現在、活用している団体は、この補助を利用して、指導者への謝金、指導者研修会などにかかる経費、事務的な負担にかかる経費として、団体へ支援しています。現在利用している団体は、文化団体の合唱

の団体1件で、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団については、現在調整中でこれから増えていく予定です。補助金は、人数に応じて算出され、100人以上であれば50万円、新規立ち上げ団体には20万円上乗せするなど要綱の別表で定めています。予算規模は、全体で約300万円を想定しています。申請には、事業計画書と収支予算書を提出してもらい、実績報告もしてもらいます。

会長・スポーツ少年団への補助金はどうなっていますか。

事務局・スポーツ少年団に所属する中学生の休日における部活動に対しての補助としています。学校に確認しながら休日の部活動にかかるものか確認しながら補助金を交付します。スポーツ少年団育成補助金の中学生の部活動にかかるものは減額されます。今その調整をしているところです。

会長・町村合併の前から櫛引地域では、中学生だけが所属するスポーツ少年団が結成されていましたが、スポーツ少年団の理念をもとに活動しているのか不明で、研修会にも一度も参加していない状況です。そんな中、今年、一中学区にバスケットボールのスポーツ少年団が結成されました。鶴岡市スポーツ少年団本部としては、小学生中学生一緒に少年団であれば地域に密着するものになると考えています。中学校の部活動の代替としての登録であっても、スポーツ少年団の3つの理念(①一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する②スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる③スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する)を理解してスポーツ少年団を結成してもらいたいと思っています。

委員・部活動のアンケートのねらいを教えてください。

事務局・今年度から始まった休日の部活動の段階的な地域移行に伴い、まず現状を把握するために実施しました。市内における新たなスポーツ・文化環境の整備充実となるためにアンケートを実施しています。具体的な質問については、それぞれの対象者でも若干変えてあります。例えば、保護者であれば、スポーツ文化活動を通して子どもに期待すること、活動時間及び日数について、現在の土日休日のスポーツ文化活動の困り感、現在の土日休日のスポーツ文化活動の満足度、これからの土日休日のスポーツ文化活動の必要性、今後のスポーツ文化活動のあり方についての質問項目で、アンケート調査をしております。

委員・補助金の交付やアンケート調査のことを今説明されましたが、競技団体としては、もうスタートしています。活動しているから補助金を交付しますという話になるか、非常に疑問があります。休日の部活動地域移行以前から組織をつくり中学生の部活動支援をしてきた団体と平等性を保ちながらどう育成していくのか非常にわかりにくい。地域移行の趣旨はわかります。全体のバランスとして目標設定を中学校の部活のあり方だけに特定するのかそうでないのか、その区分としてスポーツ少年団の理念や趣旨を逸脱して組織として成り立つとか、その辺が非常にわかりにくくなっているため、事務局も答弁に苦慮してるので、委員も質問や意見を言いにくくなっていると思います。

事務局(教育長)・10月に東北都市教育長会と山形県の都市教育長会13市の教育長もあって、山形県の教育長と懇談会をしました。山形県のスポーツビジョンの中で、中学校の部活動をどう考えてるのかを示さないで、部活動の地域移行については各市町村や教育委員会が担当することだと言われても、できないことだと言ってきました。地域移行に関して鶴岡市と同じ土俵に立っている市はありませんでした。他の市ではやっと検討会を立ち上げただけ、あとは協議会を立ち上げようと今検討しているところでした。令和8年度から活動できればいいと考えていて、この3年間は準備

期間と考えているようでした。鶴岡市の話をしても勉強になりましたと言うだけで、具体的な話をしても理解できない状況でした。山形県の教育長も頑張りますとは言っていましたが、県内 23 区の実証事業はすでに始まっていますが、その成果も、課題もまだ見えてないという状態で、これから各市の部活動のコーディネーターを集めて、推進のための打ち合わせをするという話をしていました。やっと山形県も他市町村もスタートラインに立つくらいです。これぐらいの熱い議論をできる市はありません。本日もいろいろ話が出ましたが、それだけ課題が見えているということで、鶴岡市は非常に先進的に真面目に地域移行に取り組んでいる証拠だと感じました。まずは地域移行に係る交付金をお願いしてきました。人材も必要です。スポーツクラブを運営するにしても、資金がなければ運営できません。それを企業努力だけでやっていってくださいと言われても難しい問題だという話をしました。山形県として、生涯にわたってスポーツをどういうふうに体系づけしていくのか、スポーツをどうやっていくのかをしっかり示し、国にも働きかけて欲しいと話をしてきました。今後鶴岡市の部活動地域移行について行政視察をしたいという話がどんどん来ると思います。それくらい全く手をつけてないところが多く、特に東北の教育長会では今も学校で休日に部活動をしていて、地域移行をするつもりはありませんと言っているのを聞いて驚きました。スポーツ庁を信用していないという教育長もいました。部活動地域移行は、土台もビジョンも何もなくて、ただやってみようかと思って言ったら、地域が反応して、反応してくれたところからどんどんやってくれば、そのうち何とかなるだろうと、その程度のもんだろうと言っている方もいました。ほとんど取り組んでいないのが現状ですが、真面目にやっていると馬鹿を見ることがないようにしてほしいと話をしてきました。少しでも前に進めてもらえるように考えていただければ嬉しいと思いますし、鶴岡市はやっぱり先進地だと皆さんから認められています。ぜひ様々な意見を出してもらい、やっぱり最後は子どもたちがスポーツに取り組める環境をどう作っていくのが一番いいのかということだと思いますので、その観点からお話いただければありがたいと思います。

会長・総合型地域スポーツクラブの事業が始まったときに、小学校の空き教室を開放するという話もありましたが実際には学校でやっているスポーツクラブはありません。これからスポーツクラブを創設するにしても居場所がないのが現状です。コミセンもあるかもしれませんが、コミセン事務局がスポーツクラブを運営できる余地もなくて、結局スポーツクラブの会長宅ですることなったりしています。大きな企業がやっていることと同じことはできません。補助金を100万円もらっても運営は難しく、人材も今までボランティアでやってきたものを今度は有給にするとしても、その資金がありません。会員を増やして参加料を集めればいいと言われるますが、どこも参加する人が少なくなってきた、会員の奪い合いになってしまう。部活動なら来年何人いるので参加料いくらか、指導者の謝金も考え予算を立てることができですが、その事務をしてくれる人がいるのかという話です。学校の空き教室を使わせてもらい、例えば PTA から協力してもらえないと現実的には難しいと思います。サッカーのクラブチームみたいに、月ごとに参加費などを集めて活動することになります。部活動はお金が掛からないと言われていますが、実際は掛かっていて、親の会で集金して、積み立てなどをして、遠征費などを捻出していいいます。現実的にはかなり掛かっています。そういう現状を踏まえながら考えていかないと、地域移行の受皿を新しくつくることは難しいと思います。東京などはクラブチームがたくさんあり、そこにお金をかけても参加するのが当たり前の地域であれば成立するかもしれませんが、地方では中学校単位で部活をやろうとすると難しいので競技種目

で一つのスポーツ少年団にするなど、小学校から所属しているスポーツ少年団を膨らませて活動することは可能だと思います。

委員・これだけ部活動地域移行の話が尽きないということは、一番の課題であるのでスポーツ推進計画に載せないというのはおかしいと思います。鶴岡市は先進地ですので、計画にあげて5年間でどう進んでいくかを整理して考えていくのがいいと思います。

委員・子どもたちの平等性という観点から行政は補助金の交付についてしっかり整理すべきだと思います。1人の方は助成を受けて活動、1人は組織だけど助成を受けずに活動、それでは対等とは言えない。また、補助金以外のこととして部活動の大会についても中学校と競技団体とで一度原点に戻って整理をして、施策に展開した方がいいと皆さんの意見を聞きながら感じました。

事務局・鶴岡市として休日における部活動地域移行については大きな取り組みですので、この5か年のスポーツ推進計画の中にどうやって位置付けていくかは、整理したいと思います。基本方針2の競技スポーツの中にあるべきなのかという点、競技スポーツ団体の立場から見たときはどうなのかというところもあると思います。受皿という視点で整理してしまいましたので、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、競技団体から見たとき、違和感が出てしまったのだと思いますので表現を整理します。スポーツ推進計画は、最終的に総合計画に集約していきますので、現在策定中の後期基本計画とも整合性を持たせながら、具体的な施策の書き込みの中で誤解がないように整理工夫をしていきますので次回の会議でまた相談させてください。よろしくお願いいたします。